

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

中央中学校区	校番 1	福山市立 東 小学校
最終更新日		2025年(令和7年)2月13日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の不登校生徒が増加している傾向にある。校区としての取組を進めてほしい。 ・小中学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。 ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいただいでおり、引き続き努力してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <p>○各学校において、子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。</p> <p>○小中で授業研究をすすめ、自分の考えをもち深め、対話する力をつけてきている。</p> <p>●全国学力調査の結果から特に中学校における数学、国語の力を伸ばす必要がある。</p> <p>●不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校で高い。</p>	育成する力 資質・能力	【学びに向かう力】	【課題発見・解決力】	【自己肯定感】
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している		
中学校区として統一した取組等		<ol style="list-style-type: none"> 1 校区合同で実施する授業研究 2 中学校生徒会による「学校紹介」の実施 3 校区校長会、校区教頭会、校区各主任会等を通しての連携 			

III 自校

ミッション		育成する力 資質・能力	学びに向かう力	課題発見・解決力	自己肯定感	
「知・徳・体」調和のとれた育成		めざす子ども像	低学年	目標を決め、自らを振り返りながら取り組む。	友だちの考えをしっかりと聞き、自分の考えをもつ。	友だちと関わり合いながら、自分の良いところに気付く。
学校教育目標			高学年	目標を決め、自らを振り返り、学び続ける。	自ら「問い」を見つけ、自分なりの工夫をしながら課題解決をしていく。	自分の良さ、友だちの良さに気付き、自分のやりたいことに挑戦する。
現状		研究	テーマ	「学ぶ意欲の向上と基礎的な知識・技能の習得」		
<p><児童></p> <p>○自分にできることを考え、表現したり行動したりしようとする児童が、少しずつ増えてきている。</p> <p>●しかし、上記の現状は、全校児童を単位としてとらえた場合、課題である。</p> <p><授業></p> <p>○児童は、課題を解決しようとする様々な方法を取り入れようとしている。</p> <p>○教諭は、教材研究を大事にして授業改善を進めようとしている。</p> <p>●教諭が、教えること、児童を見守ること、児童に任せること等について明確にならず、戸惑うことがある。</p>		内容等	基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、思考力・判断力・表現力等を育成する。			
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、付ける力を明確にした授業 ・基礎的な知識・技能の習得 ・学ぶ意欲を喚起するため、一人ひとりに考えをもたせるための「場の設定」 ・学びを深めるための対話的活動 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 東 小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評	達 成 評	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評	達 成 評	総 合 評	改善方策
6	知 主体的 対話的で 深い学びの 推進	★	見 直 し	学習指導要領に 基づいた授業を 行うことで、児童 一人ひとりが基 礎的な知識・技能 を習得すること ができる。	教職員の専門性や 意欲に応じた授業 改善を通して、様 々な教科で授業 研究を行う。	1・2年生 国・算 学期末テスト 平均得点率 85%以上 3～6年生 国・社・算・理 学期末テスト 平均得点率 80%以上	各学年 一学期末テスト 平均得点率 1・2年生 81%(国算) 3～6年 81%(国社算理)	3	3	ポर्टフォリオ を基に何を大切 に授業をしてい くかを考えた研 究にする。 東小学校の学習 規律ルール作り、安心・集中し て学びが深まる 授業づくりの助 けとする。	各学年 二学期末テスト 平均得点率 1・2年生 89.2%(国算) 3～6年 84.2%(国社算理)	4	4	4	ポर्टフォリオ を基にした授業 と東小学校の学 習規律の徹底を 継続するととも に、学年末には 学びの定着ため のまとめ学習を 推し進める。
2	徳 豊かで たくましい 心の育成		見 直 し	児童が、自己の課 題や挑戦したい ことを見つけ、自 分に合った解決 方法でたくまし く取り組んだり、 振り返ったりす ることができる。	学校行事や授業 で、自己決定の場 を設け、その取組 に対しての価値 付けを教員や児 童同士で行う。	児童アンケート 「自分で決めた ことや、自分の目標 に向かって取り組 み、以前よりも伸び た」肯定的割合 90%以上	児童アンケート 肯定的割合95% 児童会の生活目標 や生活改善シート 等の取組により自 分の目標や課題に 向かうことができ た。	3	4	2学期の学校行 事や授業を通し て、児童一人ひ とりが自己決定 を行い、目標に 向かうことができ るようする。 児童会執行部が協 議・提案すること に全校で取り組ん でいく。	児童アンケート 肯定的割合94% 学校行事や授業 を通して、自分の 目標や課題に取り 組むことができ た。また、毎月の 児童会目標や生活 改善等に全校で継 続して取り組むこ とができた。	4	4	4	来年度以降も児 童会主体の取組 を継続して実施 し、一人ひとり の心の育成を目 指していく。
1	体 健やかで たくましい 体の育成		新 規	児童が主体的に 健康や体につい て考え、体力の向 上を図ることが できる。	体育の授業や毎 日の体力づくり の宿題で、昨年度 課題だった柔軟 性を高める運動 に継続的に取り 組む。	「全国体力・運動能 力、運動習慣等調 査」の競技種目、「長 座体前屈」でB評価 以上の児童割合 80%以上	「長座体前屈」 9月実施結果 B評価程度以上の 児童割合57% 5月実施時達成度 46%、半期で9 ポイント向上	3	2	体育の授業や毎 日の体力づくり に加え、朝体育 での取組を継続 的に行う。児童 玄関前にチャレ ンジ道具を配置 し、意欲の向上 をはかる。	「長座体前屈」 1月実施結果 B評価程度以上の 児童割合75% 9月実施時から半 期で18ポイント 向上、5月実施時 から29ポイント向 上	4	3	4	家庭学習・体育・ 朝の時間での取 組や、チャレンジ 道具の利用の推 奨を継続してい く。

1	教職員の 資質・能力 向上	新規	児童が、元気・笑顔で学校生活をおくることができるよう、教職員研修を充実させる。	授業改善及び児童理解に向けた研修を定期的(学期に3回)に仕組む。	全校児童数に対する長期欠席児童数の割合5%以下	児童理解研修2回実施 授業改善研修毎月1回実施 長期欠席児童数の割合1%	3	4	児童理解を含め学級集団づくりを高める視点を視野に入れた授業改善研修を取り入れる。	授業改善研修を引き続き、月1回実施 登校渋り児童に対し、保護者及びカウンセラーと密な連携 長期欠席児童割合1.6%(4名)	3	4	4	児童が元気に登校できる教育課程の改善及び教職員の授業力・学級経営力の向上を目指した研修の在り方を見直す。
---	---------------------	----	---	----------------------------------	-------------------------	--	---	---	--	---	---	---	---	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。